

劇評

フォースド・エンタテインメント

演出：ティム・エッチェルス [イギリス]

『The Coming Storm』

いつものフォースド・エンタテインメントらしく、今作も陽気におかしく、同時にメランコリックで、心に触れる瞬間がある。——観客が見ているのは、プロセスである。物語を語っている状況を見るのであり、語られた物語を見るのではない。ときに、それは行き過ぎるほど個人的で、ときにまるでリサイタルのようでもあり、絵葉書の思い出のようである。センセーションを求めるといえば、思慮深くなり、そして衝動的にと次々と変化する。——『The Coming Storm』において、劇団は、コスチューム、鬘、そして小道具の山を探る。そして、素人くさくダンスのステップを踏み、木製でできた電気椅子まで作り出す。…すべてはフィクションのため。すべては良い物語のため。もし、もっとも観客を楽しませる語られない物語に対する賞があったならば、『The Coming Storm』は確実にそれを受ける価値があるだろう。

Nachtkritik (ドイツ)